本物に触れる

校長　矢島　加都美

「仮想現実」という言葉を聞いたことがありますか？「ヴァーチャルリアリティ（Virtual Reality 略して VR）」という言葉の方が伝わるかもしれません。CG や実写の映像世界に入り込むことで、家にいながら現地に行ったような感覚を得られる技術です。その技術の進歩は目覚ましいものがあり、例えば時間がなくてなかなか現地に行けなくてもヴァーチャル旅行でそこに行った感覚になることもできたり、絶対に行くことにできない歴史的な場面や２次元のゲームの世界に身をおくこともできたりします。また、いざというときの落ち着いた行動につながるように、災害を想定した場面をＶＲで体験することもできる等、現在ではヴァーチャルの世界であらゆることが体験できます。

校外学習は、教室での授業では体験できないような校外へ出ての活動を行います。本物に触れること、自分たちで行動すること、そして楽しむこと。歴史と風情ある街を当時の状況を想像しながら、また、進化した建物や町の様子を見ながら歩く。自分たちで考えたコースをまわり、見たものを目に焼き付けていく。やはり、自分で考えて動いて、自分の足で歩いて、自分の目で見て、自分の手で触れていく。どんなに技術が進歩しても、VR が本物を超えることはないと信じています。あくまでも VR は「仮想」であり「感覚」であり、見せたいものや理解させたいものを強烈なインパクトとともに強調し、意図的に人間が作り上げた想像の世界であり、それがすべてで本物だと信じ込んでしまう方が危険な気がします。だからこそ、中学生のうちに本物に触れる機会を増やしていくことで多くの人と社会を生き抜く力が身に付き、五感を働かせることで豊かな感性が研ぎ澄まされていくのです。